

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272701277		
法人名	倉石ハーネス株式会社		
事業所名	グループホーム ながわ荘		
所在地	青森県三戸郡南部町大字上名久井字伊勢堂下21-7		
自己評価作成日	令和2年12月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和3年2月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が安心・安全に暮らせるように、一人ひとりのできることに対応することはもちろん、できないことを工夫してできるように対応することを基本にしている。日常生活にメリハリをつけるために、個別外出の支援(夕食・温泉など)、小集団外出(買い物・各地域の祭り)を盛んに行っている。今年度は、新型コロナウイルスの影響で外出はしていない。また、月1回は必ず全員が参加できる行事を計画している。個別外出は介護計画にも反映している。誕生会も個人を大切にするために当日に行っている。日中は玄関施錠をせず、安全確保に気をつけながらいつでも外へ散歩できるようにしている。利用者様が、安心・安全・笑顔のある生活が送れるように、月1回の内部研修をしている。事故対策・認知症ケア・外部研修報告会等、その都度必要な研修に変更しながら実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームと役場と関係が良好であり、役場職員が毎回運営推進会議に参加するほか、役場に対して2ヶ月に1度ホームの運営に関する状況報告を行い、運営に関して様々な助言をいただいている。また、運営推進会議のほか、必要な会議等の開催にあたって関係施設を使用させていただく等、様々な支援がある。介護計画の作成・更新にあたり、家族や主治医も参画したサービス担当者会議を開催して、様々な角度から検討された利用者の状況等に対するホームの理念を反映させた個別具体的な計画となっている。利用者の生活の向上のためにはどうすれば良いか、管理者及び職員が常に議論を重ね「まずは、やってみる」ことを念頭に日々努力を重ねている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様、職員と共に「ながっこよく、輪になって、暮らそう」を基本理念とし、職員やご家族様・来客者様が目に入る場所(廊下・スタッフルーム)に理念を掲示している。	理念は職員が話し合いながら2年ごとに新しいものを作成している。地域密着型サービスの特性を踏まえ、地域とともに輪になってという意味が込められている。玄関や休憩室に掲示して、共有化できるように取り組み、利用者とともに共同生活をする気持ちで日々取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の清掃に利用者様と一緒に参加している。また、町内会会議や夏祭り準備に参加している。今年度は、公民館の建て替えのための片づけ等に参加したり、今年度は回覧板の対応や集金等町内会班長として交流を行っている。	町内の清掃・運動会・夏祭りの準備等に参加している。町内会の班長を務める等、地域との繋がりを保っている。現在はコロナ禍のため交流を控えている。しかし、現在も近隣の果樹園の方から季節の果物をいただく等、近隣との良好な関係は続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	前年度、「RUN伴」の全国を襪で繋ぐマラソンに参加して、地域の方々に認知症の理解を深めていただいた。今年度は、コロナ禍のため開催がなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、ご家族様にも委員として参加していただき、月毎の行事や利用者様の日常の様子を写真を交えて報告している。意見交換で、改善対策・外部評価を活かして反映できるよう努めている。	新型コロナ感染症対策により、ホーム内での会議開催が困難なため、役場庁舎の一室を会場に借りて開催している。地域住民代表・役場職員等が参加している。運営や利用者の様子をお伝えするために、資料には写真を多く掲載する等の工夫をしている。自己評価及び外部評価の結果や目標達成計画等を詳細に説明して、意見交換を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、町の担当職員が毎回参加しており、2ヶ月ごとのホームの状況を報告して、情報交換を行っている。取り組みに不安なときは、FAXやメール等で質問している。新型コロナ感染症対策のため、広めの会議開催場所の提供をしていただいている。	役場職員が毎回運営推進会議に参加するほか、2ヶ月毎にホームの運営に関する状況報告を行い、ホームの運営に関して様々な助言をいただいている。また、必要な会議等の開催にあたり役場施設を使用させていただく等、関係は良好である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の内外部研修を行うことで、全職員に周知している。身体拘束予防対策委員会の立ち上げ会議等で話し合っけて検討している。玄関は施錠せず、利用者様が戸外に出る際には、職員が付き添って見守りを行う対応をしている。	ホーム内に「身体拘束排除宣言」を掲示して身体拘束を行わない姿勢を表明すると共に、マニュアルの作成に併せて身体拘束予防対策委員会を3ヶ月に1回開催し、身体拘束の弊害についての理解に努めている。日中は玄関の施錠をしていないため、自由に出入りすることができ、職員が外出傾向を察知できるように見守っている。やむを得ず身体拘束を行う場合は、その理由や方法、期間、経過観察等について記録を残す体制となっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法についての内外部研修を行い、身体的・言葉の虐待がないか理解に努めている。新型コロナウイルス感染者予防のため、家族との外出や外泊を制限しているため、ホーム内での生活が不安・不満に繋がらないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度についての外部研修に参加している。伝達研修等を行い、事業や制度の重要性・必要性の理解に努めている。他棟(B棟)では、県職員・弁護士等と利用者様が話す機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約、法改定については、利用者様やご家族様に、丁寧に書面と口頭で説明をしている。利用者様やご家族様の目に付く廊下にホームの概要・契約等を書面で掲示して、理解を図れるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付用紙を施設玄関・トイレ内に設置したり、苦情受付担当者を配置している。また、利用者様やご家族様が口頭で意見・要望を話せるような信頼関係作りにも努め、運営に反映している。	利用者の意見を把握するため、利用者が任意に選べるような選択肢を示す等の工夫をしている。また、意見等を上手に表すことができない利用者には、言動等から不満や意見を察するよう取り組んでいる。ご家族の意見把握のために、玄関やトイレに意見箱を設置して、封筒も備えるなどの工夫を行っている。毎月、家族に手紙で行事や状況報告をしていたが一方通行になると考え、現在は電話による状況報告も行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する様々な委員会を設けている。職員の提案や問題点を会議で話しあったり、業務等の改善策を書類として提出して、職員が共通の意識を持って対応できるように努めている。	毎月行っている全体会議及びユニット会議で、職員の意見を聞く体制を設けている。会議では職員が十分に意見等を話せる雰囲気であり、職員から出された意見は速やかに幹部で話し合い、検討している。代表者・管理者は、年2回行う職員自身の自己評価の前後に面談を行い、職員の資質向上やコミュニケーションの確保に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員の保有資格を活かした異動や運営に関する各委員会の配置等を行っている。個々の能力の把握に努め、働きやすい労働環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数(新任・中堅・管理者クラス)に応じた研修(内部・外部)に参加してもらっている。また、伝達研修を行うことで職員個々の能力を伸ばせられるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1度、町内のグループホーム管理者会議を行い、様々な問題提議を議論したり、情報交換や情報共有を行っている。また、町内のグループホーム合同勉強会に職員が参加して、交流の機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを利用する段階で、利用者様の体調にも配慮しながら、利用者様が困っていることや不安なこと、要望等に耳を傾けている。聴く姿勢を心掛けて、信頼関係が築けるように寄り添っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを利用を開始する段階で、ご家族様が困っていることや不安な事、要望等を話しやすい雰囲気作りをしている。十分な時間を作って、ご家族様の思いに耳を傾けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を開始する前に、ご本人様の健康面や生活歴、ご家族様の関わりや思いを把握している。それぞれの立場に立って、「今」必要としている支援について話し合いの場を設けて、支援ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	朝の挨拶から始め、体調を伺いながらご利用様と一緒に作業や食事を摂っている。そのために、1日1日を大切に、日々の生活を一緒に送れるように信頼関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に利用者様の健康・生活面等について手紙や電話で近況の報告を行っている。利用者様に必要な支援ができるように、共に支えあえる関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の生活歴を把握して、自宅に出かけたり、病院や美容院に行く等して、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。現在はコロナ禍のため、外出制限をしたり、美容院は時間を決めて他の利用者とは接触がないように対応していただく等している。	入居時のアセスメントや担当職員の記録、日々のコミュニケーションで得られた情報を職員間で共有して、馴染みの場所等の把握に努めている。現在は面会を制限しているが、電話のとりつきや手紙のやりとり等を支援している。また、これまで関わってきた人との交流を継続できるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握して、共有する時間(食事・作業・会話等)が安心できる環境になるようにしている。言葉での表現が困難な利用者様には、表情や仕草から思いを汲み取り、代弁する等孤立しないように支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への転居や入院等で利用が終了しても、他施設での利用状況の確認や他施設の紹介、相談等に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員が個別に聞き取りを行うほか、日常の会話の中から利用者様の思いや希望、意向を把握している。把握した内容は、書面で伝達したり、ユニット会議で情報共有を行っている。困難な場合は、利用者様の状況を考慮し、利用者様本位で検討している。	利用者全員の希望や意向を把握するため、日々のコミュニケーションの中で話をよく聞きとり、ユニット会議等において全職員が情報を共有する等、利用者の視点に立った意向の把握と共有に努めている。併せて、家族の面会時等や関係者からも情報収集を行い、利用者本位のケアになるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご家族様から情報収集を行い、個別に書類でまとめており、いつでも職員が閲覧することができ、生活歴やこれまでのサービス利用の経過等を把握できるようにしている。新しい情報については、会議等で共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの心身面の状態や1日の過ごし方等と個別に記録に残している。全職員が目を通したり、報告することで現状を把握できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	夜勤者以外の職員とご家族様が参加できる日程でサービス担当者会議を開き、1ヶ月毎の介護計画の実施率を参考に作成している。	介護計画作成・更新時には、担当職員・家族・主治医も参画したサービス担当者会議を開催している。職員同士で共有した利用者の状況に対するホームの理念を反映させた計画となるように努めている。また、家族の面会時等に利用者の状況報告を行うとともに、今後の支援についての意見や要望を確認して、計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿って、レクリエーション等や作業提供を行い、個別にケース記録として残している。気づきを申し送りして共有して、実施している。月1回のサービス担当者会議を開き、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	随時、利用者様やご家族様の状況の把握に努め、個々のニーズに対して職員が話し合う場を設けている。柔軟な支援や多機能なサービスが受けられるように、職員が連携を図り取り組んでいる。訪問リハビリの利用者が1名いたが、現在はコロナ禍のため見合わせている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の暮らしを支えている地域資源の把握と活用に努めている。安全な暮らしのために、地域の消防署との協力体制を整えている。地域のボランティアの受け入れや訪問支援等を行い、暮らしを楽しむことができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様やご家族様の希望に合わせて、かかりつけ医に利用者様の細かな状況を伝え、関係作りに努めている。また、同町医療機関の月1回の訪問診察を受けられる等、適切な医療を受けられるように支援している。	入居前のアセスメントで、これまでの受療状況を確認して、利用者と家族が望む医療機関の受審を継続できるようにしている。職員が通院介助を行う場合は、通院方法や受診結果は共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護職員の訪問時に、利用者様個人の情報や気づき、心身の状態を報告して、指示を受けて対応している。訪問時以外は、電話連絡等で対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の個々の身体面に注意して、医療関係者との情報交換や相談に努めている。訪問診察を利用している利用者様は、担当看護師と連絡を取り合い、指示を受け安心して治療をできるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の状況をしっかりと把握して、ご家族様に早めの連絡と報告をして、話し合いを行っている。ホームでできることを十分に説明して、ご家族様の思いや意向に沿えるよう方針を立てている。書面で記録を残すことで、共有と支援ができるように取り組んでいる。	ホームでは、利用者の重度化や終末期に対応することとしており、入居相談時にその旨を伝えている。継続的な医療行為が必要となった場合や重度化の際は、再度家族等から対応についての確認を書面で得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の状況をしっかりと把握し、ご家族様に早めの連絡と報告をして話し合いを行っている。ホームでできることを十分に説明して、ご家族様の思いや意向に沿えるよう方針を立てている。書面で記録を残すことで、共有と支援ができるように取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者様も参加する避難訓練を夜間想定で実施している。年1回、消防署員や消防団員参加の避難訓練も実施し、指導を受けたり協力を得られる体制を築いている。	日中だけではなく、夜間も想定した具体的な避難誘導策を作成している。地域消防団や消防署職員が毎回参加のうえ、職員と利用者と一緒に年1回、火災想定での避難訓練を行っている。消火器や避難路の確保等の設備点検を毎年定期的に行っている。また、災害時に備えて、食料や飲料水、寒さをしのげる部品を備えるとともに、発電機も購入する予定となっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりの心身の状態や生活歴等を把握したうえで、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応に努めている。	利用者が親しみやすいようにしつつ、年長者に対する配慮を忘れないように職員同士で注意喚起を行っている。また、トイレ誘導の際は、周りに気づかれぬように対応する等、利用者の羞恥心に配慮して日々業務を行っている。個人ファイルは、外部から見えないように管理を徹底する等、個人情報の取り扱いについても十分な配慮をするよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々な場面で、食事や水分補給、入浴、外出、作業等、利用者がしたいことを自己決定できるように支援している。思いや希望等の意思表示が困難な利用者様には、態度や表情等から把握するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日をどのように過ごしたいのか利用者様に聞き取りを行い、健康面や状況に合わせたペースで希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品や整髪料の購入の対応、衣類購入のための外出や着替えの衣類の選択等の支援を行っている。月1回の訪問理容で、散髪・髪染め等ができるように支援している。現在はコロナ禍のため、訪問理容を見合わせている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に食事作りや盛り付け、下膳、食器拭き等を行っている。また、利用者様から好みや食べたい物、食事の感想を聞き取り、検食簿に記入後、メニューに反映させている。介助の必要な利用者様には、メニューの説明を行って食事が楽しめるように支援している。	利用者の健康維持に必要な栄養バランスや好みに配慮して、なるべく好きな物を食べていただくように努めている。職員と一緒にテーブルに座って食べこぼし等のサポートをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の1日の食事や水分量等を記録して把握している。頻尿を気にした水分摂取の拒否がある利用者様には、好みの物を提供したり、少なめの量でこまめに提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は口腔ケアの重要性を認識して、毎食後に口腔ケアを実施している。嚥下予防のため、食前に嚥下体操を実施している。就床時には、義歯洗浄剤を使用して清潔保持に努めている。また、訪問歯科診療時に、アドバイスや研修を実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人の排泄パターンを記録して把握している。こまめに排泄の声掛けを行っている。尿意や便意を言葉にできない利用者様には、しぐさや様子を観察してトイレ誘導を行っている。夜間はポータブルトイレを使用しており、自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄チェック表を作成して、排泄パターンを把握し、適切なトイレ誘導をしている。失禁がある利用者には、定時でトイレ誘導を行い、自尊心や羞恥心に配慮した排泄の支援を行っている。利用者の体調や状況に応じて、対応方法の変更について検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療機関や訪問看護師から便秘の予防についてのアドバイスをいただいて、理解を深めている。訪問販売時に乳酸菌飲料を購入している。水分摂取に気をつけながら体操を行ったりする等、一人ひとりに応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入浴は週2回以上としている。入浴を楽しめるように、順番や入浴曜日、同性介助等、一人ひとりに応じた支援を行っている。血圧が低めな利用者については、入浴前にバイタル測定を行い、湯あたりしないように対応している。	一人ひとりの入浴習慣や好みを把握して、週2回を基本として入浴をさせていただいている。入浴が好きな利用者には回数を増やしている。シャワー浴をしていた利用者にはブルーシートを湯舟に仕立て、湯舟につかってもらう等の工夫をしている。入浴に対して負担感や羞恥心を理解して対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後や入浴後等に、利用者様の希望や疲れが見えた場合は、居室で休んでいただく等して体調の変化に注意している。夜間体調が気になり眠れない場合は、検温やバイタル測定を行って安心していただいている。行動障害(徘徊)のある利用者様には付き添ったり、眠い様子が見られるまで職員の側で過ごしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の不明点は、看護師や薬剤師に確認を行って理解するように努めている。症状に変化があった場合は、記録に残して医療機関へ連絡・報告することとしている。誤薬防止マニュアルを周知して、徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の希望を取り入れて、花壇作成や水やり、編み物等を行ったり、気分転換に戸外の散歩に出かける等している。また、月1回のホーム外での行事を計画して楽しみごとができるように努めている。現在はコロナ禍のため、ホーム内で楽しめるような行事を実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様一人ひとりの希望や状況に合わせて、外食や買い物、ドライブ、公共施設の利用等をして外出支援を行っており。また、ご家族様が付き添って美容院に出かけたり、外食を楽しめるよう支援している。現在は、新型コロナウイルス感染症予防のため支援が難しくなっている。	コロナ禍のため、人混みがある場所への外出は控えている。天気のいい日は近隣を散歩をする等、利用者が気分転換できるように働きかけるとともに、日頃から利用者との会話を通して行きたい場所や思い出の場所を把握できるように努めている。コロナ禍以前は、年間行事を計画して行っており、行事予定は前もって家族に知らせて参加を促している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員はお金を持つことの大切さを理解している。お金を所持してもらったり、買い物の際に使えるよう支援している。お金が減ることに対する不安や他利用者様とのトラブルについては、随時対応している。所持金や保管場所の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望が見られた場合は、いつでも電話をかけられるように対応している。手紙のやり取りをしたり、ご家族様に暑見舞いを出したりできるように支援している。コロナ禍で面会が制限されているため、テレビ電話の使用が増えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホール内に季節感を感じられるように、季節の花々や収穫物を飾ったり、利用者様が製作した季節に合った塗り絵や折り紙を展示している。また、居心地良く過ごせるように、共用空間の整理・整頓に努め、掃除や消毒・換気の徹底している。	ホールには日射しが入ってとても明るい環境である。利用者はそれぞれソファやテーブル席でくつろいで過ごしている。利用者が作成した季節の飾り物等を多く展示しており雰囲気が良い。また、季節が感じられるように、装飾をホールに飾り、窓の外からは季節の移ろいを見ることができる。ホーム内は、加湿器や温度・湿度計を設置しており、適切に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席やソファ席が安心して自由に座れるように配置している。また、歩行や意思表示が困難な方が、1人で過ごすことのないようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様やご家族様と相談して、居心地良く過ごせるように使い慣れたもの(布団・枕・時計・装飾品・写真・家具等)を配置している。花が好きな方には、世話をできるように鉢を置いたり、家電(テレビ・冷蔵庫)や壇上仏具の持ち込みにも対応している。	入居前から愛用していた物を持ってきてもらうように家族に働きかけている。持ち込みが少ない場合は、利用者の意向を確認しながら過ごしやすいお部屋となるように、一人ひとりに合った居室作りの支援をしている。テレビや時計、位牌の持ち込みがあり、毎日手を合わせる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	排泄の自立が高い利用者様には、トイレの場所を認識できるように、案内の紙を貼っている。転倒の危険性があつたり尿意が近い利用者様をトイレ近くの居室に配置している。転倒の危険性がある方には、動線に配慮した家具の配置している。		